

## テクノ共感覚 概要 / 小島健治

視覚と聴覚は私たちの感覚器官では別です。しかしアーティストの小島健治はどこかに繋がりがあると感じてきました。共感覚と言われる色を見ると音が聞こえる人達がいるそうです。小島を含む多くの人は色の音は聞こえず音には色が見えません。プロジェクト「テクノ共感覚」は、コンピュータ・テクノロジーを使って視覚と聴覚の境界を越えようとする実験アートです。作品形態はビデオですが、映像による物語や幻想の表現ではなく、主に画像・環境音と制作の進行状況を見せています。プロジェクトは元にするビデオの画像データをアルゴリズムで解析し、音階に変換してコンピュータ楽器で演奏します。視覚から作る音楽は、過去の音楽的美意識は受け継いでいません。コンピュータのデータは視覚・聴覚共にバイナリー（0と1）で扱えるので、ある感覚データを別な感覚データに変換する事が可能です。言葉を変えれば、小島はバイナリーを最も基本的なアートマテリアルと考えています。上記のアルゴリズムは、ビデオ画像のデータ採取箇所を結んでドロッキングを描き、最終的にデータの採取時間を各点に取り込んで三次元ワイアを作り出します。アート史では20世紀始め、作曲家スクリアビンや画家のカンディンスキーは、視覚と聴覚の共通項を探り出す試みがありました。21世紀に人間の身体能力を拡張するサイボーグは、テクノロジーによる人類の進化と考えられます。同様にテクノロジーによる、異なる感覚の融合や拡張の開発も人類の進化と言えます。しかし実践的な科学技術がまだほとんど踏み込んでいない領域なので、テクノロジーを使う現代アートのフロンティアとして残されている数少ないフィールドかもしれません。